

平安時代のスーパーレディー『小野小町』が生まれ、そして生涯を終演した地「雄勝町」。古の時代から多くの先人達によつて連綿と受継がれてきた『小町まつり』は、秋田を象徴する観光イベントとなり、多くの町民に支えられ後世に伝えていきます。

先人達が育み地域住民が支え受継がれる「小町まつり」（雄勝町）

才色兼備の平安朝のスーパーレディー『小野小町』

「秋田のおなご／なんし
てきれいだど／聞くだけやば
だんス／小野小町の生まれ在
所／おめはん知らねのゲ」

正調秋田音頭も、秋田美人の
ルーツとして誇りと愛情を込
め歌っている『小野小町』。

「古今集」の序文に、和歌
の名人在原業平らと供に六歌
仙と並び称され、また、中国
の楊貴妃、エジプトのクレオ
パトラと並んで世界三大美女
と称されるなど文字通り才色
兼備の平安時代のスーパーレ
ディー『小野小町』。

女流歌人として数々の優れ
た歌を残していますが、『小
野小町伝説』として日本の歴
史上最も多くの謎と神祕のベ
ールに包まれた女性の一人で
す。

全国には小町に関する伝説

の残る地域が数箇所あると
言われていますが、「雄勝町」
はその小町が生まれ、生涯を
終えた地として古くから小町
に関する遺跡の保存・伝承に
取り組む、小町を偲ぶ祭『小町
まつり』が行われてきました。

起源は江戸時代、地域の
有志が小町堂を再建

この祭りのルーツは、江戸
時代から行われていた記述が
あるほど古く、小町伝説で重
要なかわりを持つ「芍薬」
の色がまだ鮮やかな頃、田植
え作業の慰労を兼ねて周辺の
地域で行ったのが始まりとさ
れています。

昭和28年には、戦後間もな
く設立された「小野小町遺跡
保存会」や、旧小野村の青年
婦人の有志などによつて、小
町の御神体を祀った御堂（小
町堂）が再建されました。

小町堂の建立は、終戦の混
乱時、青少年の心の乱れるの

小町まつり前夜祭、小町の謎とロマンを探り、
七小町が妄想絵巻を繰り広げます。





淡い桃色の打ち掛けに、市女笠姿の小町娘の立ち振る舞いは、雅やかな平安情緒を醸し出します。

を憂慮して、小町信仰と郷土愛を結び付け、小野小町の出生地としての誇りを後世に伝承することを目的に建立されました。

この年の6月20日に第1回の「小町まつり」が盛大に執り行われ、以来祭典は今日まで途絶えることなく受け継がれ、年を追うごとに華やかさを増し、思考を凝らした祭りとなり、現在県を代表する観光イベントに成長しました。

祭りの主役「市女笠姿の七人の小町娘」の誕生

祭りの主役はおなじみの「市女笠姿の七人の小町娘」。この小町娘達が祭りに登場したのは、昭和41年、秋田・宮

城を結ぶ国道108号「仙秋サンライン」の開通を祝つ記念行事に、京都から故郷に帰る小町を再現したのが始まりで、大変に好評だったことから、翌年から「市女笠の小町」が登場することになります。

そして翌43年には、小町の郷には小町に由縁のある名所・旧跡が旧小野村に七箇所あることや、「小町」と名付けられた謡曲が七曲あることになぞらえ、また、一人より七人の方がにぎやかで一層艶やかになることから、この年の小町まつりから七人の小町娘が登場して、和歌を朗詠・奉納し、「七小町」が誕生したのです。

以来毎年七人の小町娘がメインとしてまつりを彩り、今日まで250名を超える小町娘を輩出しております。

弛まぬ努力と地域のサポートが育む「小町まつり」

小町娘は、雄勝町在住もしくは町に就業している二十歳前後の未婚の女性を対象としており、町の企業や各種団体等から推薦を頂いて選考されます。

選ばれた七人の小町娘達は「小町まつり」までの約1ヶ

月間、(毎週月から金曜日の午後6時から夕食を挟んで午後9時頃まで)歩き方や座り方、立ち方、市女笠の扱い方や和歌の詠み方、礼儀・接客作法など、平安朝の立ち居振舞いを学び、講師には先輩の小町娘が所定のカリキュラムの基指導に当たります。

伝説の郷土の偉人の雰囲気

を少しでも醸し出すため、その日に練習したポイントや指摘・注意事項、反省点をレポートとして記入し次の練習につなげるなど、「小町娘」の練習はハードなものになります。

したがって、本人の理解は勿論のこと、推薦して頂いた企業や職場、家族の理解・サポートがあつてはじめて小町娘が誕生していくのです。

この小町娘達の弛まぬ努力と地域のサポート体制が、祭りを見る人を平安情緒あふれる神秘的・幻想的な世界へと

いざない、しばし古の時代にタイムスリップさせてくれる「小町まつり」となるのです。

祭りの後、この洗練された七人の小町娘達は1年間、町や県などの各種観光イベントや行事に参加することになります。

受継がれた「小町」の名は秋田ブランドとして確立

祭りは、地域の住民らで組織された町観光協会の小町まつり実行委員会が主催し、運営に当たります。

この祭りも当初は「小野小町堂祭り」と呼ばれていましたが、昭和60年に祭典の名称を「小町まつり」と統一しました。

現在の小町堂は、平成7年に改築したもので、鮮やかな紅色の御堂は「小町まつり」を一層華やかにし、これを契機に秋田を象徴する一大観光イベントとして確立していき

ました。

「ご承知のとおり、「こまち」の名称は、コシヒカリに追随する作付面積となった「あきたこまち」や秋田新幹線「こまち」に代表されるとおり、秋田ブランドとして確立され

全国の共通認識となつています。このことは、郷土の偉人「小野小町」を後世に受継ぐため、連綿と続いてきた先人達や地域住民の遺跡保存・祭り伝承への弛まない取り組みが、秋田ブランド「こまち」を確立したと言つても過言ではありません。

町民意識を高め一体となつた取組みを展開

雄勝町も過疎化、少子高齢化の波は避けて通れず、それを反映してか七人の小町娘の応募者は年々少なくなつております。

町では今後、町民がこの祭りを大切に想い、次世代に繋げていくという意識を、更に高めていき、町民と一体となつた取組みを展開していくこととしています。

「小町まつり」は毎年6月の第2日曜日に開催されます。今年は宵祭(前夜祭)が6月12日、本祭が13日の日程で行われます。

「小野小町」伝説を大切に後世に伝えていく雄勝町の「小町まつり」を堪能し、平安絵巻の世界に浸って見てはいかがでしょうか。



多くのプロやアマチュアカメラマンが、華やかで美しい小町娘をカメラに納めます。